

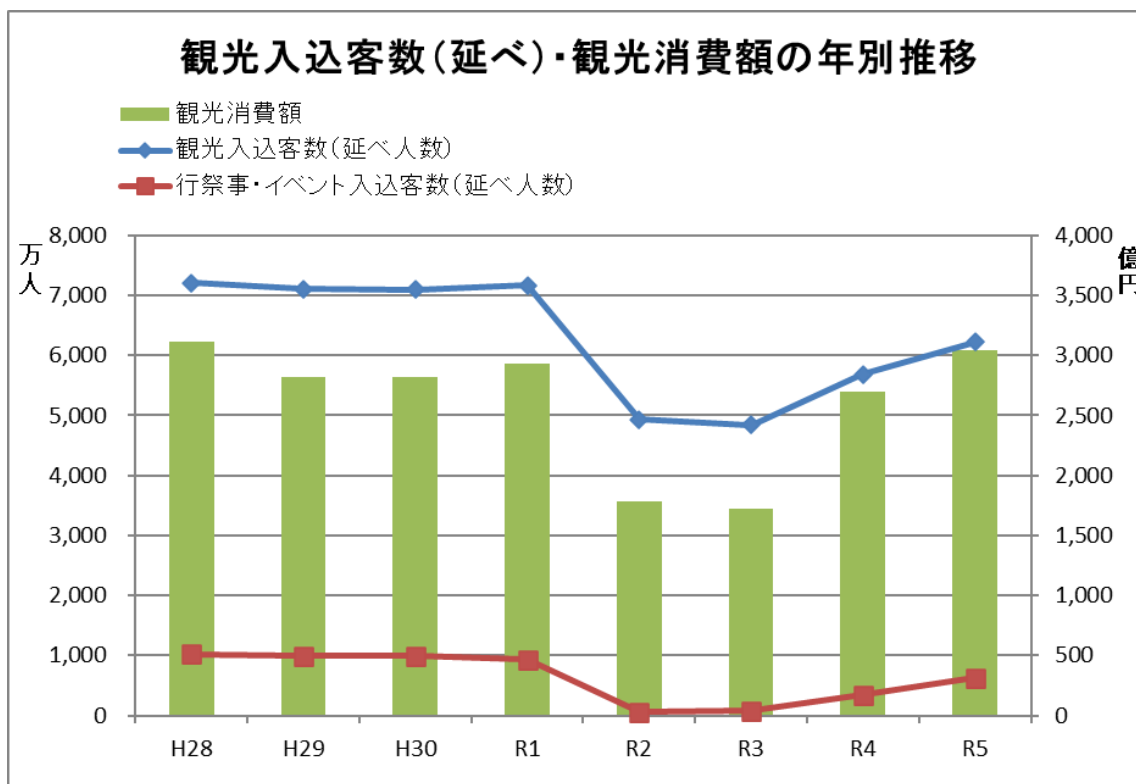
令和5年岐阜県観光入込客統計調査



令和6年12月

岐阜県観光国際部観光国際政策課

1 観光入込客数（延べ）・観光消費額



区 分	R 5 [2023]年	参考：R 4 [2022]年	参考：R 1 [2019]年	
観光入込客数 (延べ人数)	6, 2 2 1万 9千人 (対 R4 年比 + 9.5%) (対 R1 年比 Δ13.1%)	5, 6 8 3万 8千人	7, 1 6 2万人 8千人	
行祭事・イベント 入込客数 (延べ人数)	6 2 3万 9千人 (対 R4 年比 +84.1%) (対 R1 年比 Δ33.3%)	3 3 8万 8千人	9 3 5万 4千人	
観光入込客数 (実人数)	4, 3 6 4万 9千人 (対 R4 年比 + 2.4%) (対 R1 年比 Δ 9.1%)	4, 2 6 2万 6千人	4, 7 9 9万 5千人	
内 訳	日帰り客 (86.4%)	3, 7 7 0万 8千人 (対 R4 年比 + 0.4%) (対 R1 年比 Δ 9.8%)	3, 7 5 6万 5千人	4, 1 8 2万人
	宿泊客 (13.6%) 【うち外国人】	5 9 4万 1千人 (対 R4 年比 +17.4%) (対 R1 年比 Δ 3.8%) 【 7 5万 4千人】 (対 R4 年比 + 625%) (対 R1 年比 Δ35.4%)	5 0 6万 1千人 【 1 0万 4千人】	6 1 7万 5千人 【 1 1 6万 7千人】

区 分		R 5 [2023]年	参考：R 4 [2022]年	参考：R 1 [2019]年
観光消費額		3, 0 4 3 億 5 5 百万円 (対 R4 年比 +12.6%) (対 R1 年比 + 3.8%)	2, 7 0 2 億 4 7 百万円	2, 9 3 2 億 8 3 百万円
内 訳	日帰り客	1, 4 3 4 億 8 7 百万円 (対 R4 年比 + 5.8%) (対 R1 年比 △ 1.8%)	1, 3 5 6 億 5 2 百万円	1, 4 6 1 億 3 3 百万円
	宿泊客	1, 6 0 8 億 6 7 百万円 (対 R4 年比 +19.5%) (対 R1 年比 + 9.3%)	1, 3 4 5 億 9 5 百万円	1, 4 7 1 億 5 0 百万円

※千人未満を四捨五入しているため、対前年比に誤差が生じることや、内訳の計と合計が一致しないことがある。

※宿泊客の「うち外国人」については、観光庁の宿泊旅行統計調査における本県の外国人延べ宿泊者数をもとに算出している。

(令和5年外国人延べ宿泊者数 109.6万人)

- **観光入込客数（延べ人数）**
 - ・ 6, 2 2 1 万 9 千人（対前年比+ 9.5%）となり、前年に比べ増加した。
- **行祭事・イベント入込客数（延べ人数）**
 - ・ 6 2 3 万 9 千人（対前年比+84.1%）で、前年に比べ増加した。
- **観光入込客数（実人数）**
 - ・ 4, 3 6 4 万 9 千人（対前年比+2.4%）と、前年に比べ増加した。
- **観光消費額**
 - ・ 総額は 3, 0 4 3 億 5 5 百万円（対前年比+12.6%）で、うち日帰り客分は 1, 4 3 4 億 8 7 百万円（対前年比+5.8%）、宿泊客分は 1, 6 0 8 億 6 7 百万円（対前年比+19.5%）であった。
- **主な傾向**
 - ・ 令和5年は、全国旅行支援(1/10-6/30)の旅行割引キャンペーンや、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に変更され、外出自粛が解除されたことが追い風となり、観光需要が拡大し、観光入込客数（延べ人数）は前年に比べ増加した。
 - ・ インバウンドについては、4月の水際措置撤廃以降着実に増加したものの、新型コロナ前までの回復には至らなかった。
 - ・ 観光入込客数の伸びに比べて観光消費額の伸び率が大きく、観光消費額は前年のみならず、令和元年度を上回った。
 - ・ 同様に、平均消費単価も、日帰り・宿泊ともに増加した。

日帰り： 3, 6 1 1 円→ 3, 8 0 5 円（対前年比+5.4%）（対 R1 年比+ 8.9%）
 宿泊客： 2 6, 5 9 4 円→ 2 7, 0 8 0 円（対前年比+1.8%）（対 R1 年比+13.6%）

2 観光地点別の集客数（県内トップ10）

（単位：万人）

順位	観光地点名	入込客数	参考：R4[2022]年		参考：R1[2019]年	
			順位	入込客数	順位	入込客数
1	土岐プレミアム・アウトレット（土岐市）	479.1	1	493.0	1	668.3
2	河川環境楽園（各務原市）	418.4	2	408.9	2	477.5
3	高山市街地エリア（高山市）	346.8	3	229.4	3	382.7
4	湯の華アイランド（可児市）	164.7	4	161.7	5	168.5
5	白川郷合掌造り集落（白川村）	163.8	12	60.6	4	203.1
6	伊奈波神社（岐阜市）	139.0	5	130.3	7	147.5
7	養老公園（養老町）	126.6	6	123.5	—	—
8	千代保稲荷神社（海津市）	124.1	8	110.0	6	160.6
9	岐阜公園（岐阜市）	123.0	9	97.6	11	102.2
10	千本松原・国営木曾三川公園（海津市）	119.2	7	112.6	9	136.4

- 観光地点毎の入込客数は、1位から4位までの地点の順位に変動はなかった。
- 令和4年に比べ、訪日観光客の増加もあり、「白川郷合掌造り集落」が170.1%増、「高山市街地エリア」が51.2%増となるなど、特に飛騨地域の観光地点で入込客数が増加した。
- 令和4年と比べた入込客数の増加率をみると、豪雨による道路崩壊で一部通行止め（R4.8～10）となっていた「白山・白川郷ホワイトロード」が12万0千人、665.5%増（R1年比56.6%増）で最も増加し、コロナ前の令和元年を上回る入込客数となった。

3 行祭事・イベント入込客数（県内トップ10）

（単位：万人）

順位	行催事・イベント名	入込客数	参考：R4[2022]年		参考：R1[2019]年	
			順位	入込客数	順位	入込客数
1	ぎふ信長まつり（岐阜市）	44.0	1	62.0	5	34.0
2	道三まつり（岐阜市）	41.0	4	16.0	3	38.0
3	郡上おどり（郡上市）	30.1	9	7.2	6	30.8
4	高山祭（高山市）	28.0	5	15.5	2	40.0
5	各務原市桜まつり（各務原市）	21.1	7	10.0	7	29.0
6	チューリップ祭（海津市）	18.4	3	17.9	10	20.6
7	刃物まつり（関市）	15.0	8	9.0	-	-
8	たじみ陶器まつり（春）（多治見市）	15.0	2	18.0	13	16.0
9	航空祭（各務原市）	13.8	24	3.5	32	6.5
10	水都まつり（大垣市）	13.0	38	2.0	15	14.0

○県内トップは、騎馬武者行列に著名人が参加した前年には及ばなかったものの、前年と同じ「ぎふ信長まつり」（岐阜市）、2位は「道三まつり」（岐阜市）で、ともにコロナ前を超える入込客数となった。

○3位は、4年ぶりの通常開催となった「郡上おどり」で、コロナ前に迫る入込客数となった。

○コロナ禍において中止されていた行催事・イベントが本格的に再開されたことにより、令和4年より入込客数は大幅に増加した。

4 経済波及効果（試算）

令和5年の県内観光消費による経済波及効果（観光関連産業の経済波及効果）を試算したところ、生産誘発額は4,450億23百万円、就業誘発効果は、40,243人となった。

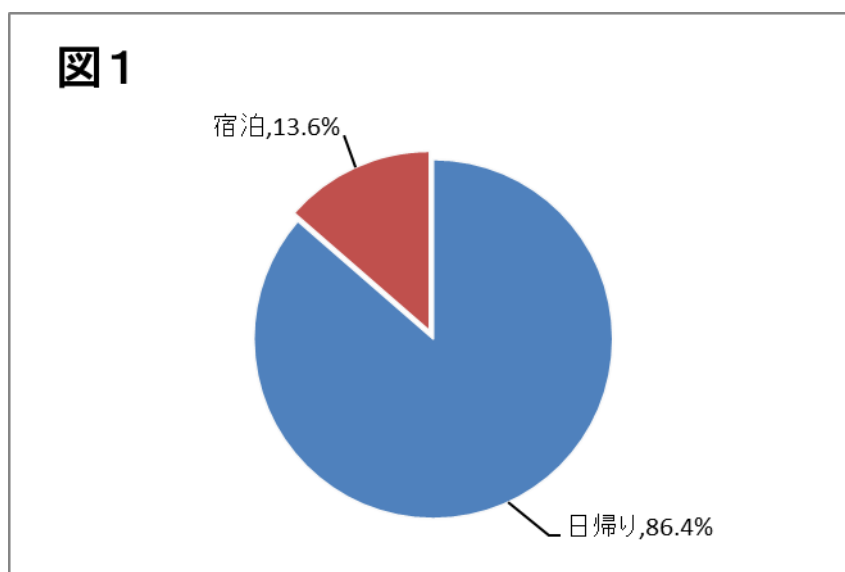
<参考> 旅行者分類別データ

県内観光客の動向をより詳細に分析するため、観光入込客数（延べ）を実人数に換算し、旅行者分類別、県内圏域別の入込客数、外国人宿泊客数等を算出した。

※詳細は、別添「参考表」参照

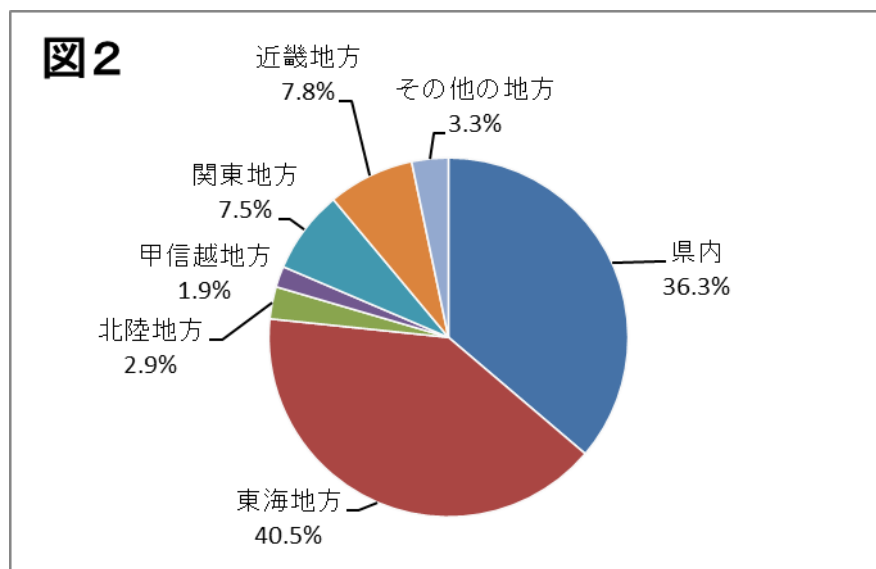
※千人未満を四捨五入しているため、対前年比に誤差が生じることや、内訳の計と合計が一致しないことがある。

(1) 日帰り・宿泊別観光入込客数の割合



令和5年の観光入込客数（実人数）は4,364万9千人であり、日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は3,770万8千人（構成比86.4%）、宿泊客は594万1千人（構成比13.6%）であり、依然として日帰り客が多くを占めた。（図1）

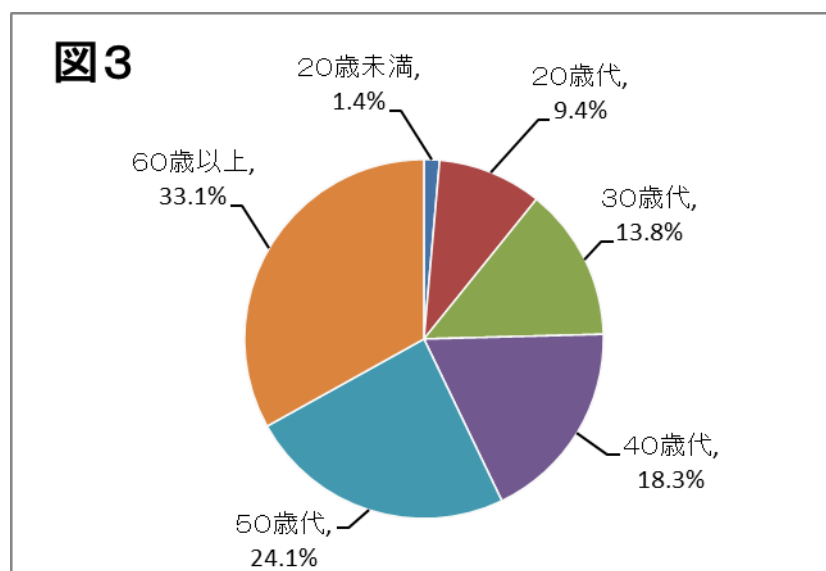
(2) 居住地別観光入込客数の割合



居住地別に見ると、県全体では県内客は1,583万8千人（構成36.3%）、県外客は2,781万人（構成比63.7%）と、県外客が多くを占めた。

県外客のうちおよそ6割が東海地方からの観光客であり、以下近畿地方、関東地方と続いている。（図2）

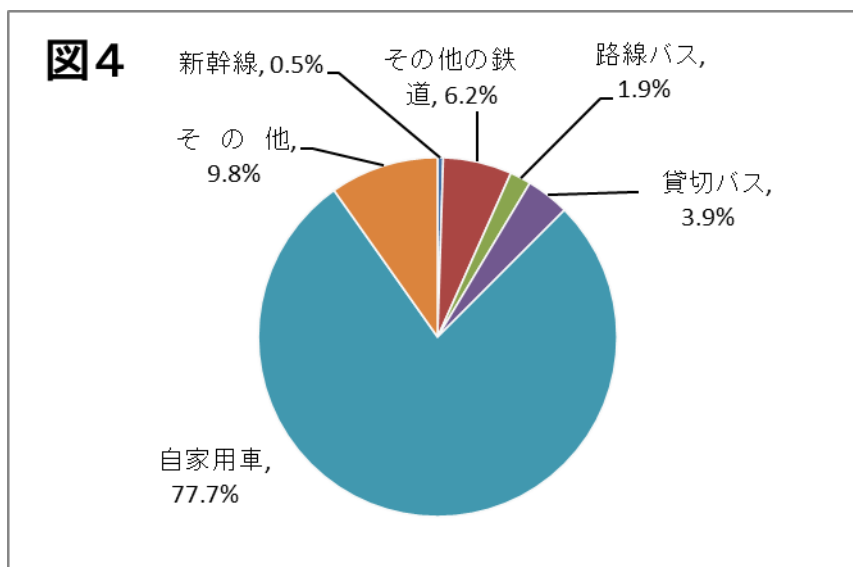
(3) 年齢別・男女別観光入込客数



年齢別では、60歳以上が33.1%と最も多く、続いて50歳代、40歳代、30歳代と続く。（図3）

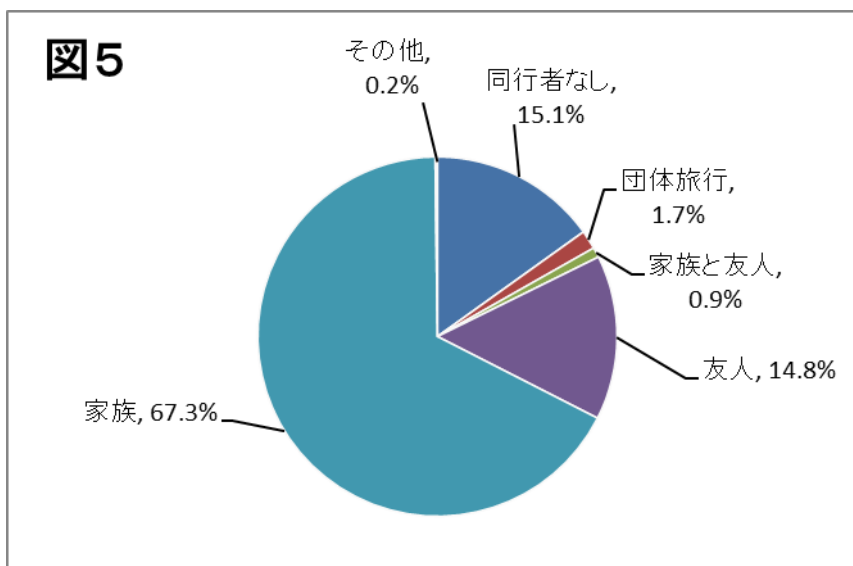
男女別では、男性が2,317万9千人（構成比53.1%）、女性は2,047万人（構成比46.9%）と男性が多い傾向がある。

(4) 利用交通機関別観光入込客数



利用交通機関別に見ると、自家用車が最も多く全体の 77.7%を占め、鉄道や路線バスなどの公共交通機関の割合は低い。前年に比べ、その他の鉄道 (5%→6.2%)、貸切バス (2%→3.9%) の割合が増えている。(図4)

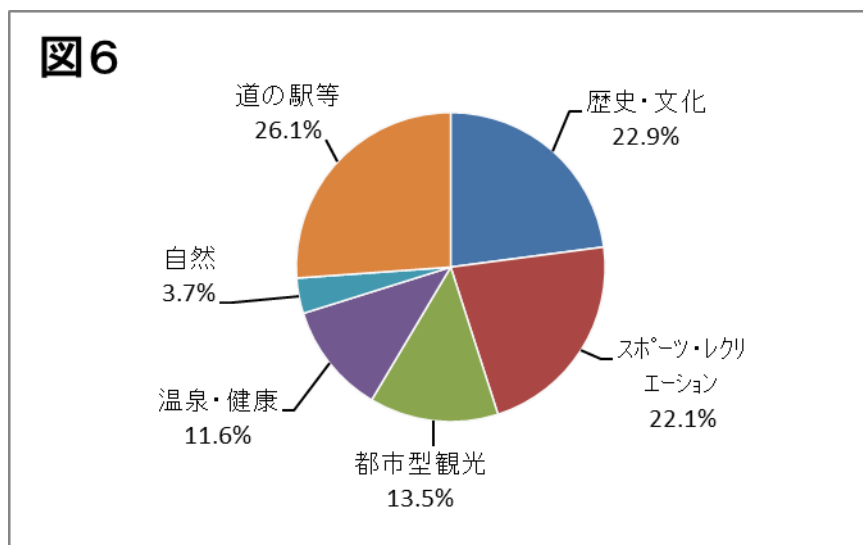
(5) 同行者別観光入込客数



同行者別では、「団体旅行」の割合は全体の 1.7%にとどまり、「家族」が 67.3%と最も多く、次いで「同行者なし」が 15.1%と個人旅行が主流となっている。(図5)

同行者人数別では、「(本人を含め) 2～3人」が最も多く全体の 66.0%を占め、続いて「(本人を含め) 4～5人」が 14.5%であった。

(6) 観光地分類別観光入込客数の割合



観光地分類別では、「道の駅等」、「歴史・文化」「スポーツ・レクリエーション」、の順に多く、以下、「都市型観光」、「温泉・健康」、「自然」と続く。(図6)

※観光地の分類方法については、9頁<調査の概要>参照

【平均訪問地点数と平均宿泊数】※ ()内は前年(R4)比

- 1人当たり平均訪問地点数(「観光地点入込客数(延べ人数)」を「観光入込客数(実人数)」で除したものは、**1.4地点(+0.1地点)**で、四半期別に見ると、1~3月が1.5地点(+0.3地点)、4~6月が1.3地点(△0.1地点)、7~9月が1.4地点(+0.1地点)、10~12月が1.5地点(+0.2地点)であった。
- 同一施設における1人当たり平均宿泊数(「宿泊客数(延べ人数)」を「宿泊客数(実人数)」で除したものは、**1.2泊(+0.1泊)**で、四半期別に見ると、1~3月が1.1泊(±0.0泊)、4~6月が1.2泊(+0.1)、7~9月が1.1泊(+0.1泊)、10~12月が1.2泊(+0.1泊)であった。

<調査の概要>

本調査は、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」（令和5年5月改定）に基づき、実施したものである。

1. 調査期間

令和5年1月1日から令和5年12月31日まで

2. 調査対象観光地点等

①観光地点の定義

- ・非日常利用が多いと判断される地点。
- ・観光入込客数が適切に把握できる地点。
- ・前年の観光入込客数が年間1万人以上、若しくは前年の特定月の観光入込客数が5千人以上である地点。

②観光地点等の分類

観光地点等の分類は以下の区分による。

■観光地点	
自然	山岳、高原、湖沼、河川、海岸、海中、島、その他自然（エコツーリズム、グリーンツーリズム等）
歴史・文化	史跡、城、神社・仏閣、庭園、歴史的まち並み、旧街道、博物館、美術館、記念・資料館、動・植物園、水族館、産業観光、歴史的建造物、その他歴史
温泉・健康	温泉地、その他温泉・健康
スポーツ・レクリエーション	スポーツ・レクリエーション施設、スキー場、キャンプ場、釣り場、海水浴場、マリナー・ヨットハーバー、公園、レジャーランド・遊園地、テーマパーク、その他スポーツ・レクリエーション
都市型観光 一貫物・食等	商業施設、地区・商店街、食・グルメ、その他都市型観光一貫物・食等（農水産品の直売所、物産館等）
道の駅等	他に分類されない観光地点（道の駅、パーキングエリア等）
■行祭事・イベント	行・祭事、花見、初詣、花火大会、郷土芸能、地域風俗、博覧会、コンサート、スポーツ観戦、映画祭、コンベンション・国際会議、他に分類されない行祭事・イベント

3. 調査プロセス

(1) 観光地点等入込客数調査

統計の基礎となる観光地点等ごとの入込客数（延べ人数）を把握する。

(2) 観光地点パラメータ調査

県内の20観光地点を訪れた観光客を対象に調査を行い、属性別の構成比、平均訪問地点数、平均消費額単価などのパラメータを算出する。

(3) 観光入込客数（実人数）・観光消費額単価・観光消費額の推計

上記（1）、（2）及び観光庁より提供される以下のデータを用いて推計する。

- ・観光目的別・居住地別の宿泊観光入込客数
- ・ビジネス目的・県外の日帰り観光入込客数
- ・観光目的別・宿泊／日帰り別の訪日外国人の観光消費額単価
- ・ビジネス目的・宿泊／日帰り別、県内／県外別の観光消費額単価
- ・観光／ビジネス別、県内／県外別実家・キャンプ場等利用補正係数